

由布ならではの 移住・定住プロジェクト

対象とする課題

由布市は、豊かな自然環境や充実した子育てサービス、そして大分都市圏という立地にありますが、近年は少子高齢化が進み、空き家の増加、自治区の存続も懸念されています。また単に移り住むだけの移住では、地域とのつながりが形成されにくいため、自治会や地域文化の維持が困難な状況になることが懸念されています。

- ① 移住者数や移住者のニーズ、移住後の課題の抽出、地区の現状と要望等の把握ができていない。
- ② 住居、特に就農希望、子育て等の移住者ニーズに対応できるワンストップサービス[○]の仕組みがない。
- ③ 大分都市圏としての由布市の強みや、豊かな自然環境を積極的にPRできていない。

目 標

由布市の強みを十分に活かした定住促進の取り組みを進め、自治区と行政の連携により、スムーズに移住希望者が地域に住み受け入れられる環境づくりを行い、両者にとっての幸せな移住・定住を目指します。

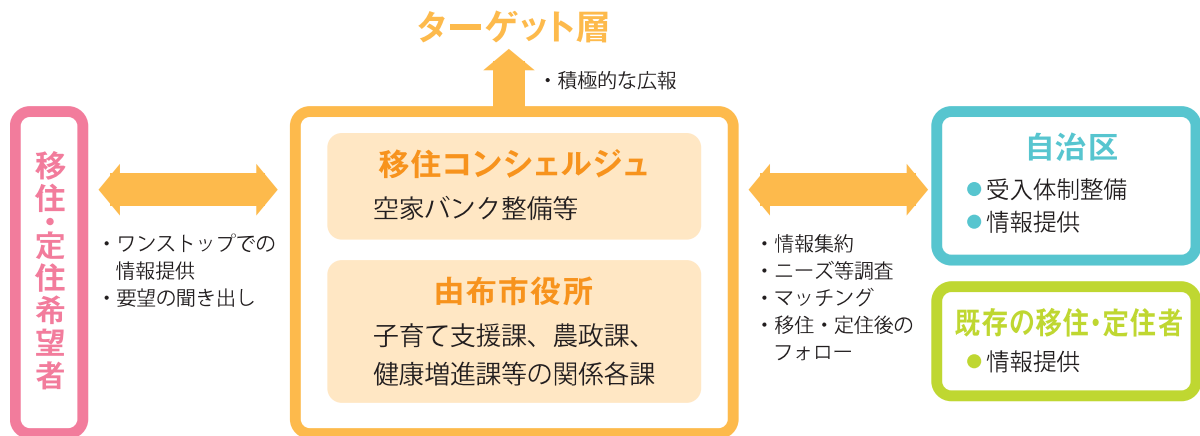
基本方針

- ① 現状の移住者・定住者のデータの収集、ニーズの把握、蓄積、公表を行う。
 - a) 市民の方が、住み続けようと思える仕組みの検討・実施
 - b) 移住・定住希望者、既に移住してきた方のニーズの把握
 - c) 既存の自治区の移住者等へのニーズの把握
 - d) 市民協働による定住促進の仕組みの構築
- ② 移住・定住希望者の希望地域、住居、仕事、子育て環境等の情報やサービスをワンストップで提供できる体制整備
 - a) 空き家バンクの充実
 - b) 滞在型保養温泉地の取り組みと連動し、移住を促進する体制及び人材を構築する。
- ③ 戦略的な広報活動の実施
 - a) 由布市内それぞれの地域性と、そこで実現できるライフスタイル[○]を求めるターゲットの明確化
 - b) 大分都市圏としての立地、そして美しい自然環境や四季の恵みと調和したライフスタイル[○]等、由布市の強みを具体的に表現した広報活動
 - c) ツーリズムとも連動した移住定住促進の実施

成果指標

指標名	直近値	目標値	指標の説明
人口動態における社会動態の推移数	－ 115 人（H 26 年度）	－ 50 人（H 32 年度）	転入者と転出者による社会動態の増減の差
空き家情報利用者数	約 100 件（H 26 年度）	200 件（H 32 年度）	空き家バンクの利用登録者数
移住コンシェルジュ人数	1 人（H 27 年度）	2 人（H 32 年度）	移住希望者と受け入れ側との橋渡しする人の数

■ 推進体制



移住コンシェルジュが中心となり、由布市への移住定住希望者への対応、ターゲット層への積極的な広報を行います。また、市役所の各課と密な連携により、希望者の要望やニーズに素早く対応できる内部の仕組みをつくります。また自治区とのミスマッチングを防ぐためにも、受け入れ希望地区等と連携を取りながら、スムーズな移住定住を促します。また、既存の移住定住者へのフォローや情報交換を行うことで、よりよい移住施策の向上を目指します。

■ 目標実現に向けた主な取り組み

	主な取組名	取組内容の説明	担当課	関係課
1	定住及び移住推進事業	・現市民の定住化を図る仕組みづくり ・住環境の強みと受け入れ側の状況等を明確にしたPRの展開等	総合政策課 地域振興課	健康増進課 建設課 子育て支援課
2	空き家利用による移住・定住化事業	空き家バンクのさらなる利活用を目指す。 空き家登録の募集、住居に関する移住希望者のニーズ把握、情報発信、空き家を活用した体験型宿泊の基盤構築等	総合政策課	地域振興課
3	移住者受け入れ整備事業	移住希望者と受け入れる地域のマッチング作業 受け入れる地域の環境整備	総合政策課	地域振興課

■ 目標実現に向けたステップと5カ年のスケジュール

	主な取組名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
1	定住・移住推進事業	整備・実施				
2	空き家利用による移住・定住化事業	整備・実施				
3	移住者受け入れ整備事業	整備・検討			実施	



【ワンストップサービス】

一度の手続きで、必要とする関連作業を全て完了させられるよう設計されたサービスのこと。

由布ならではの
移住・定住プロジェクト



